2025.3.6

卒業生の就業先調査　結果

調査対象者

令和 5 年度の本学介護福祉学科卒業生を採用した法人及び施設等の施設長、人事課長（15 施設・事業所）

調査期間

令和 6 年 12 月から令和 7 年 1 月

調査票回収数・回収率

回収数　12 通（施設・事業所）

回収率　80.0%

※1 通がすべて未記載であったため、11 通分を分析対象とした。

1．施設・事業所の属性

施設･事業所の種別は､特別養護老人ホームが 7 件(64%)で最も多く､次いで障害者支援施設 3 件(27%)、高齢者ショートステイ 2 件（18%)、介護老人保健施設、高齢者デイサービス・デイケア、訪問介護事業所、障害福祉サービス事業所、その他が各 1 件（9%）であった。その他の 1 件は介護医療院であった。(複数回答)

施設･事業所の運営主体は、社会福祉法人が最も多く 9 件（82%）であった。

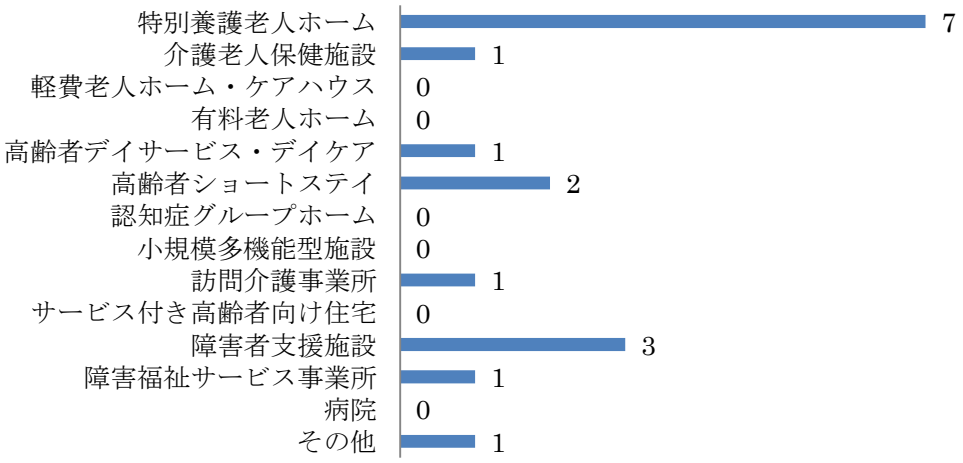

図１．施設・事業所の種別（複数回答）

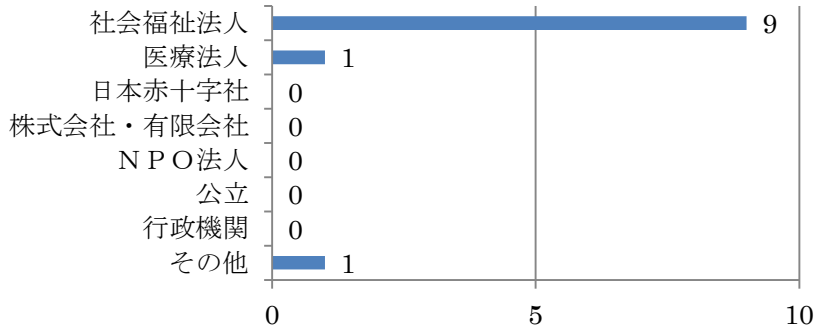

図２．運営主体（n=11）

２．卒業生の雇用状況

令和 6 年度採用の本学卒業生の職種について回答を得た。

職　種	男性	女性	計
ケアワーカー（介護職）	1	13	14
その他	0	0	0
計	1	13	14

３．採用理由（複数回答）

本学卒業生を採用した理由として最も多かったのは、「介護福祉士の資格を取得している」10 件（91%）であった。

次いで、「将来性が期待できる」9 件（82%）、「本学卒業生の実力は評価できる」8 件（73%）、「基礎学力がある」「本学卒業生は定着率が高い」各 7 件（64%）であった。

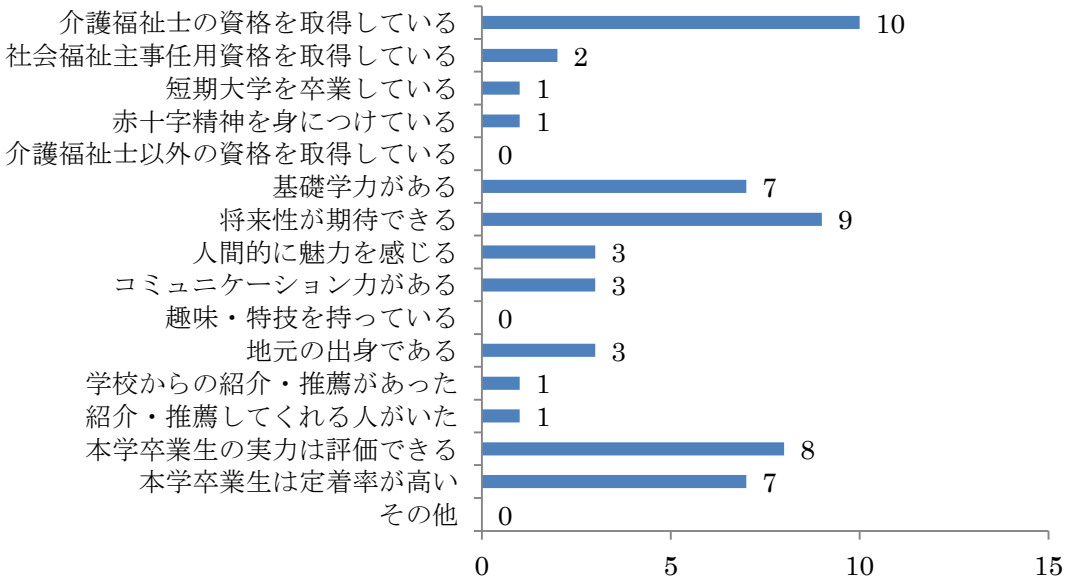

図３．本学卒業生を採用した理由（複数回答）

４．今後の採用意向

「今後も本学卒業生を採用したいと思うか」という質問に対し、「そう思う」が 10 件（91%）、「ややそう思う」が 1 件（9%）であった。

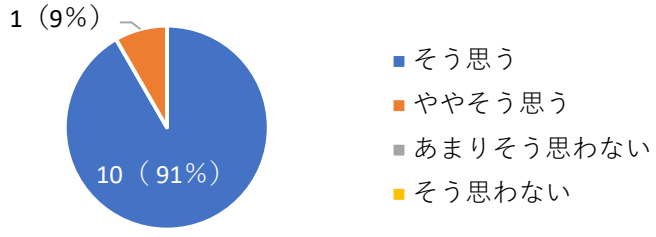

図４．本学卒業生の採用意向（n ＝11）

５．卒業生のへの評価

「本学卒業生が施設・事業所が求める人材ニーズや期待に応えているか」という質問に対し、「応えている」が 7 件(64%)、「どちらかといえば応えている」が 2 件（18%)、「どちらともいえない」が 2 件（18%）であった。

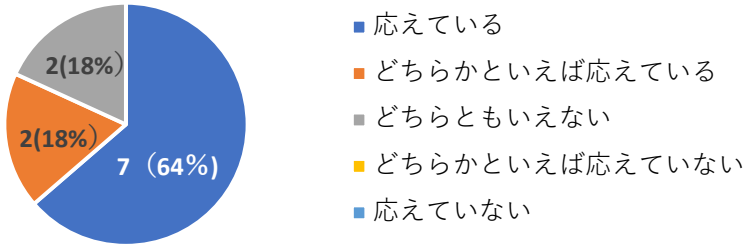

図５．人材ニーズや期待に応えているか（n＝11）

６．職務遂行能力

本学卒業生の職務を遂行する能力や意識の水準については、「高いと感じる」7 件（64%)、「どちらかといえば高いと感じる」3 件（27%)、「どちらともいえない」1 件（9%）であった。

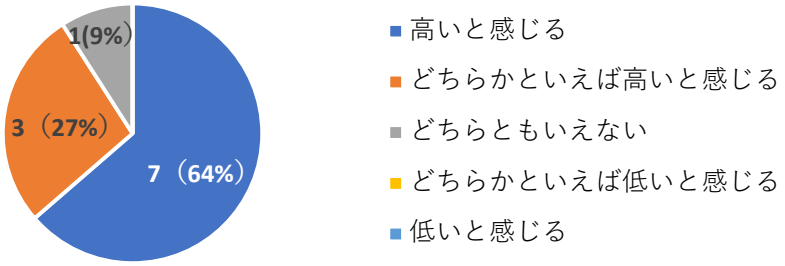

図６．職務遂行能力・意識（n＝11）

７．卒業生が身に着けている能力

本学卒業生が、図７に示した能力等(16 項目)を身につけているかどうかについて、「(身に着けていると)思う」から「(身に着けていると)思わない」までの５件法で回答を求めた。

「思う」が最も多かった項目は「基礎的知識や基礎学力」6 件（55%）であった。次いで「人の痛みや苦しみに共感できる感性」5 件（45%)、「自己の体調管理に努めている」「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」「自己研鑽を重ねていく姿勢」「協調性、コミュニケーション能力」「チームワークや健全な人間関係を築く力」各 4 件（37%）であった。

「思う」「やや思う」を合わせて 100%になった項目が「身だしなみや言葉遣いなどの社会常識」「基礎的知識や基礎能力」であった。

「どちらともいえない」が多かった項目は「リーダーシップ、指導力」7 件（64%)、「ＩＴの知識やスキル」「気づきや発見ができる創造性の豊かさ」「調査、分析、報告の能力」各 4 件（37%）であった。

どの項目においても「思わない」との回答はなかったが、「あまり思わない」との回答があった項目は「仕事上の課題等に積極的に取り組む姿勢」「自己研鑽を重ねていく姿勢」「リーダーシップ、指導力」各 1 件であった。

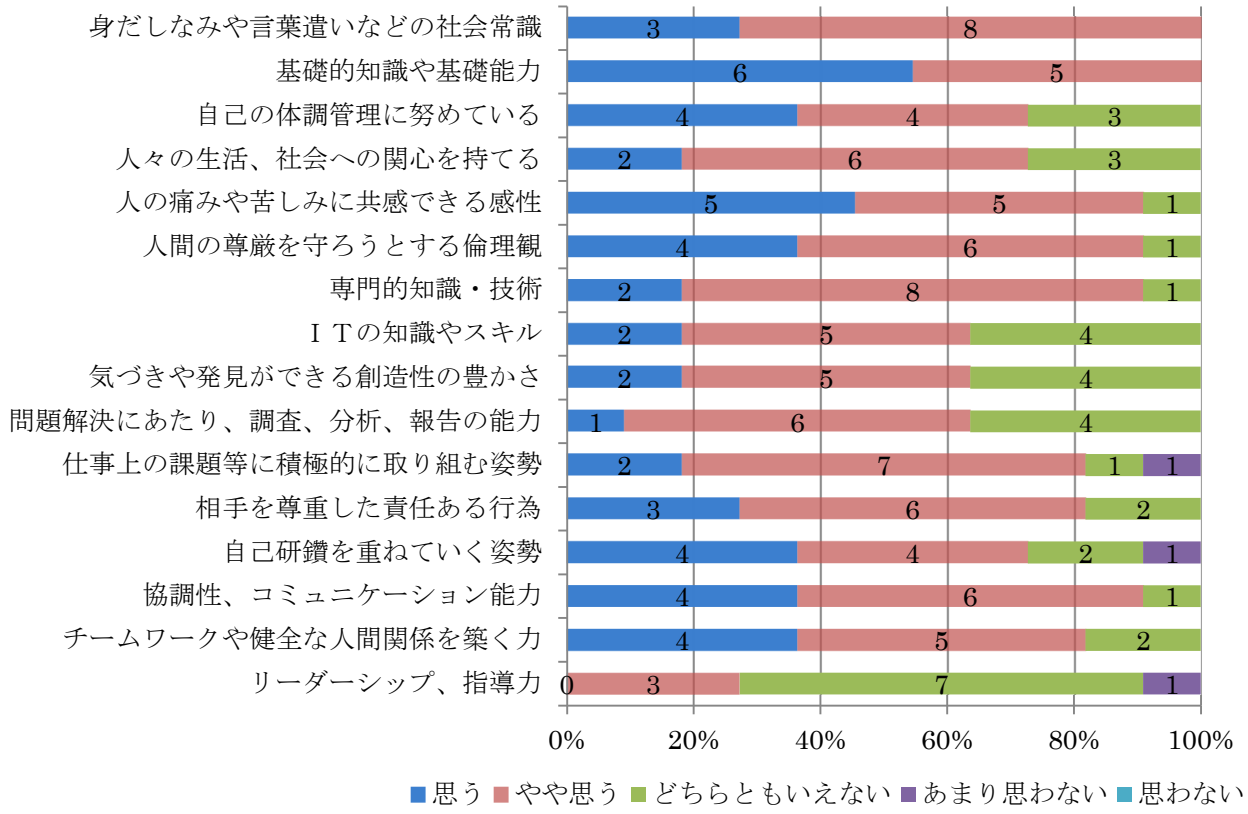

図７．本学卒業生が身につけていると思う能力（ｎ=11）

８．施設・事業所における重要視の度合い

前述の 16 項目の能力等を各施設･事業所がどの程度重要視しているのかについて、「重視している」から「重視していない」までの５件法で回答を求めた。

「重視している」が最も多い項目は「チームワークや健全な人間関係を築く力」10 件（91%）、次いで「人の痛みや苦しみに共感できる感性」、「人間の尊厳を守ろうとする倫理観」、「相手を尊重した責任ある行為」各 9 件（82%）、「身だしなみや言葉遣いなどの社会常識」7 件（64%）であった。

「重視している」と「やや重視している」とを合わせた回答が 80%以上であった項目がほとんどだったが、比較的低かった項目は例年同様に「IT の知識やスキル」と「リーダーシップ、指導力」であった。

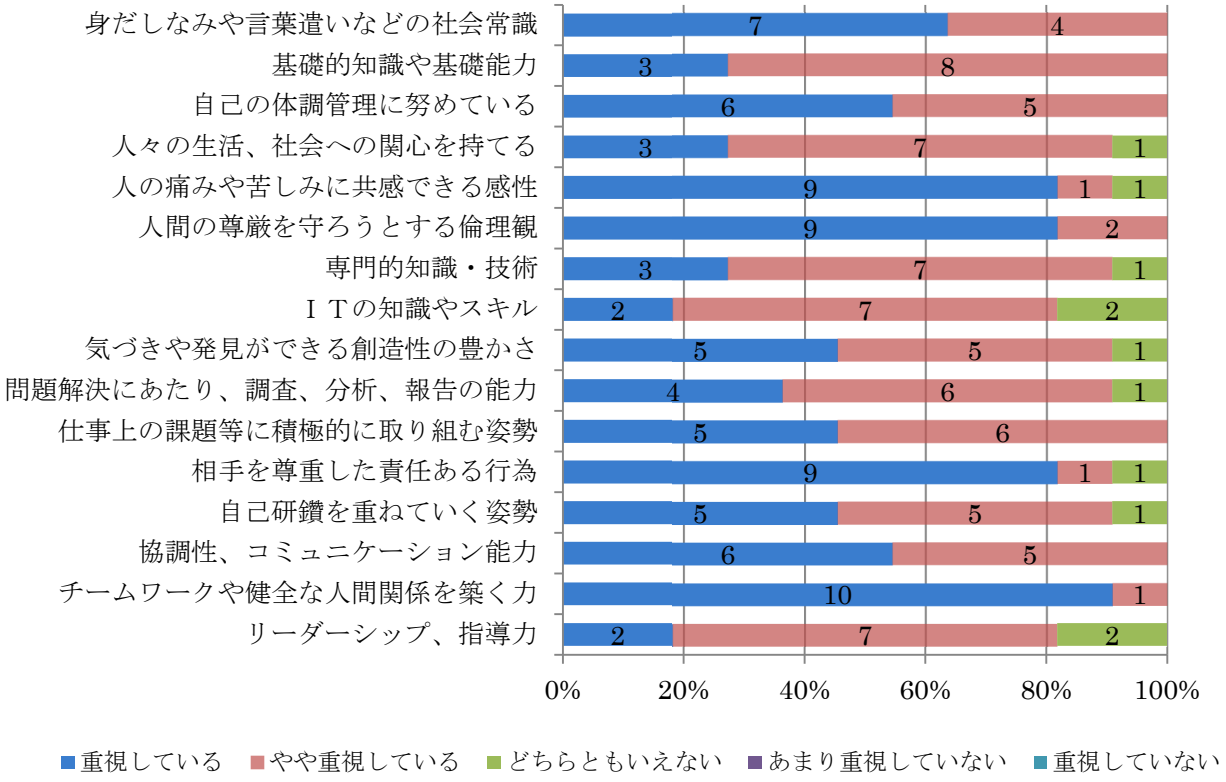

図８．施設・事業所における重要度（ｎ=11）

９．本学の教育活動について

本学の教育活動についてどのように感じるかについて回答を求めたところ、「高く評価できる」8 件（73%）、「ある程度評価できる」3 件（27%）であった。（図９）

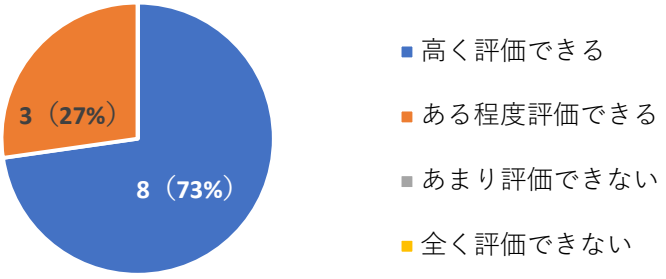

図９．本学の教育活動についての評価（n ＝11）

上記のように感じる理由について自由記述にて尋ねたところ、「高く評価できる」では 8 件中の 4 件から、「ある程度評価できる」では 3 件中 3 件から回答があった。

１）「高く評価できる」理由

・社会福祉に対する意欲の高い人材を育成されている。災害対応など実践する姿を見せて教育されている。
・個人差はあるが、介護スキルが高い
・貴校の卒業生は、問題解決に向けて幅広い視野と科学的な根拠を持って日々の業務に取り組む姿勢が見られ、頼もしさを感じております。
・実習や実際の就職を通して学ぶ姿勢や取り組みが真摯であると感じた。比べるのは失礼だが、学校で学んできていると基本的な姿勢ができており、安心できる。

２）「ある程度評価できる」理由

・当法人にも責任はあると考えていますが、近年の貴校卒業生の離職者が他の職員に比べて多く（高卒者や他校卒者）、就労と定着についての意識に若干の疑問を感じている。
・基本となる所は習得できていると思います。しかし、自ら進んで追求する、学習する姿勢について十分ではない様に思います。
・学ぼうとする意識は高いように感じます。

１０．本学への期待

本学への期待について、13 項目を設定し、その中から「期待する」項目について複数回答にて回答を得た。さらに、「期待する」項目の中でも「最も期待する」項目について１つ回答を求めた。

本学へ期待することとして最も多く挙げられた項目が「常識、マナーを身につけるための教育の充実」、「就職斡旋の強化」、「実習指導における介護現場との連携強化」、「介護職に対する介護技術の指導」が各 7 件（64%）であった。次いで「基礎学力を高める教育の充実」5 件（55%）であった。（図 10）

「その他」として、「若年者の秋田からの流出を少しでも減少するための役割をもってもらいたい」との意見があった。

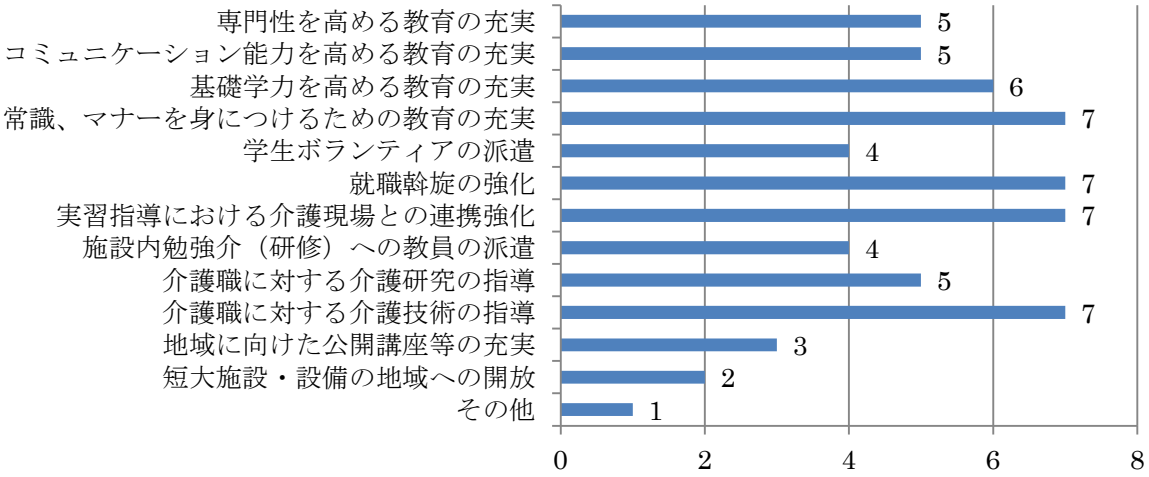

図10. 本学に期待すること（複数回答）

また、「期待する」とした項目の中で「最も期待すること」を１つ選んでもらったところ、「常識、マナーを身につけるための教育の充実」が最も多く 3 件（27%）、次いで「施設内勉強会（研修）への教員の派遣」2 件（18%）、「基礎学力を高める教育の充実」「就職斡旋の強化」が各 1 件（9%）、無回答 4 件（36%）であった。（図 11）

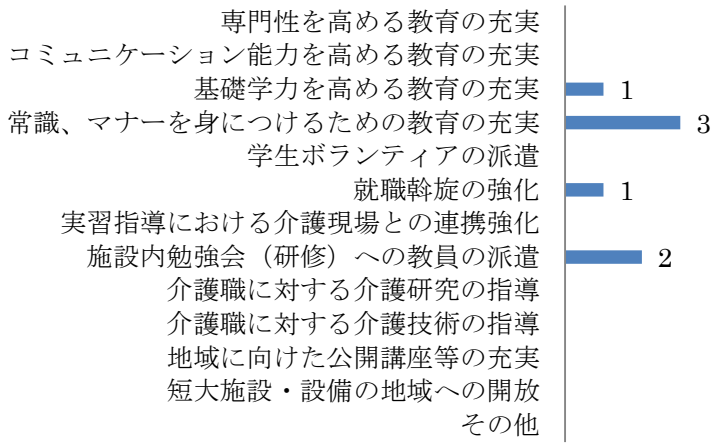

図11. 本学に最も期待すること（ｎ＝11）

１１．本学への意見・要望

本学への意見･要望について自由記述による回答を求めたところ、4 件の回答があった。

･介護の専門校として、近年減少している学生の確保のため、より早期から小中高等への介護についての啓発の実施や法人との連携等、今後はより強化していただきたい。
･実習や就職活動等について、今後とも連携を深めていきたいと考えております。
･入職した 4 月に比べ、利用者様への接し方、向き合い方も変わり、利用者様を理解しようという姿勢も見られます。利用者様へ良い支援が出来るようにこれからも指導をしていきます。今後ともよろしくお願いします。
･教育面は十分だと思います。社会人としての常識、体調管理、メンタルなど、働くうえで大切な部分が年々弱くなってきているように感じます。

以上